

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	D-20-3
事業名	復興まちづくり支援施設整備事業（避難施設）
事業費	総額 39,585 千円（国費 29,688 千円） （内訳：設計費 945 千円、工事費 38,640 千円）
事業期間	平成 25 年度
事業目的・事業地区（必要に応じ、別紙として地図を添付） ・事業目的 東日本大震災により甚大な被害を受けた旧国民宿舎「食彩の宿いいおか荘」の再建にあたり、観光客、海水浴客、避難の遅れた周辺住民の人命を確保するため、「旭市復興まちづくり計画」に基づき、外部階段を設置し現施設の屋上を緊急避難場所として整備する。 ・事業地区 旭市萩園 1437	
	
事業結果 施設概要 外階段(屋上)高さ 11.0m（海拔 15.7m） 構造 鉄骨造 3階建 屋上避難有効面積：600㎡ 収容人数：600人	



①階段着工前



②階段設置後



③屋上着工前



④屋上整備後

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

海水浴場に面した宿泊施設の屋上を避難施設にしたことで、目につきやすく、周辺の地理に詳しくない観光客等への緊急避難施設を設置できた。本施設を避難施設とすることで海水浴場からの避難行動の単純化が図られ、移動時の混乱を抑制することが期待される。また近隣住民でも逃げ遅れた場合に利用でき、地域の防災力向上につながることもできた。

② コストに関する調査・分析・評価

既存施設の屋上を利用したことで、新たに用地取得や避難タワー等を建設する必要がなく、コスト縮減につながった。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

津波により被災した旧国民宿舎「食彩の宿いいおか荘」において、地域の観光拠点として宿泊施設の再開、震災の記憶を後世に伝え防災教育の場となる「旭市防災資料館」の開館と併せて、本事業による避難施設機能を備えることで、復興のシンボルとして施設を再建することができた。既存施設を再利用することで早期に避難施設を設置することができ、事業手法として妥当と考えられる。

事業担当部局

総務課地域安全班 電話番号：0479-62-5311